

診断に苦慮した *Pneumocystis* 肺炎の 1 例

◎今村真治<sup>1)</sup>、谷村 満知子<sup>1)</sup>、角矢 栄美<sup>1)</sup>、山口 大<sup>1)</sup>、吉田 友理子<sup>1)</sup>、岩本 望<sup>1)</sup>、岩井 宗男<sup>1)</sup>、林 裕司<sup>1)</sup>  
滋賀医科大学医学部附属病院<sup>1)</sup>

〔はじめに〕

*Pneumocystis jiroveci* は、正常では不顕性だが、エイズをはじめとする細胞性免疫不全患者に急性びまん性間質性肺炎をもたらす日和見感染性病原体である。今回我々は、HIV 陽性患者で診断に苦慮した *Pneumocystis* 肺炎の 1 例を経験したので報告する。

〔症例〕

患者; 30 歳代、女性。

既往歴 ; 難治性口腔咽頭潰瘍、口腔カンジダ症

現病歴 ; 2021 年 1 月より 37-38 度の持続する発熱、難治性口腔咽頭潰瘍にて近医通院。精査にて HIV 抗原・抗体陽性を認め、胸部 CT で両肺野にびまん性にスリガラス影を認めたため、精査加療目的で当院紹介受診となる。

入院時 胸部 Xp ; 両下肺野びまん性に透過性低下  
気管支鏡検査実施。

〔気管支肺胞洗浄液 ; 細胞所見〕

白血球や組織球、線毛円柱上皮細胞や少数の扁平上皮細胞が見られる中、light green 淡染性～orange 淡染性の溶血赤

血球様の集塊や泡状集塊が認められた。PAS 反応では、泡状物質の辺縁が陽性～陰性で確診に至らず Grocott 染色実施。Grocott 染色では、円形ないし半月状の嚢子が観察され、P, *jiroveci* 陽性で報告した。

〔考察〕

P, *jiroveci* は、Pap 染色では、light green 淡染性～orange 淡染性の溶血赤血球様の集塊や泡状集塊として認められる。患者情報から免疫不全症が疑われる場合、溶血赤血球様の集塊や泡状集塊が P,*jiroveci* を疑う所見であり、Grocott 染色での確認が望まれる。鑑別診断としては、酵母型真菌の *Cryptococcus neoformans* が鑑別にあがる。*Cryptococcus* は、比較的散在性に出現し、多核組織球の貪食像等が鑑別点と考えられる。

〔結語〕

P, *jiroveci* は、Pap 染色での検出は極めて困難であるが、溶血赤血球様の集塊や泡状集塊は P, *jiroveci* を疑う所見であり、入念な Screening と Grocott 染色の併用が重要であると考えられた。  
連絡先 077-548-2605